

愚民政府論

ロージナ大茶会 2009 年
ねとすた落選まつり

ロージナ茶会総統
白田秀彰

目次

1. 民主主義 2.0 / 一般意志 2.0 (推測)
2. 民主主義批判 / 一般意志批判
3. 統治機構
4. バカと暇人の世界
5. 愚民政府について考える
6. おわりに

講演時間 1 時間

1. 民主主義 2.0 / 一般意志 2.0 (推測)

ised@GLOCOM (2005-2006)の頃の議論と、ウェブ学会における「民主主義 2.0」に関する議論から推測するに

民主主義 2.0

- a. (A)意思決定支援システムの支援によって、**行政による被治者へのサービス部門**については、大規模な直接民主制としよう。
- b. 政策ごとの識者・専門家が自動的に抽出され、議論をリードするような仕組みで、政策決定しよう。
- c. (B)諸政策間の整合性を調整するような自動的システムを構築しよう。
- d. (A)システム・(B)システムについては、**オープンシステム**として構築して透明性を担保しよう。
- e. 代議員や意思決定にかかわる公務員を大幅削減しよう
- f. 基礎生存所得保障を導入しよう

平等とは

すべての人間がまったく同じ状況に置かれねばならないというわけではない。

「権力に関しては、それがいかなる暴力にもおちいることのない程度でなければならず、権限と法とによるのでなければ決して行使されるべきでないということ、富に関しては、いかなる市民も他の市民を買えるほどに裕福でなく、また、いかなる市民も身を売らなければならないほどに貧乏であってはならない」ルソー

一般意志 2.0

- a. 近代民主主義の祖である社会契約論での**一般意志とは、人民の意思の(共時的・通時的)全体集合**だった。

東氏の Web 学会での発言 twitter のタイムラインが全体意志で、twitter データベース全体が一般意志。

- b. ルソー時代に想定されていた「国家」とは、現在よりもはるかに小さな規模の国家だった。それゆえ、投票による代議制によっても運用可能だった。
- c. 現代社会は大規模かつ複雑になったので、投票による代議制は、もはや有効ではない。 **代議制の停滞**
- d. 情報技術の発達により、大規模な意見を集約し得るような(A)意思決定支援システムが存在しうる。

- e. それゆえ、大規模かつ複雑になった現代国家の運営においてこそ、(A)システムを用いるべきである。
- f. (A)システムによって纏め上げられる政策こそが、より正確な多くの意思の全体集合である**一般意志 2.0**である。

というようなことになるのだろう。

でも、東氏が提案する人民の意志の集約システムを表現する場合に、「一般意志」という言葉は使わないほうがいいんじゃないだろうか。

2. 民主主義批判 / 一般意志批判

民主主義 **democracy**

民主主義とはいえ、いろいろな形態が考えられ、それによって纏め上げられる「意思」は変動するだろう。

a. 全員 **peuple / sujets**

b. 有権者全員 **citoyens**

- ・収入財産

- ・年齢

- ・性別

- ・宗教

- ・政治信条

c. 投票意欲を持つ者 **citoyens actif**

- ・有権者登録
- ・厳密な投票 (ex. 誤字を許さない)
- ・複雑な手続を伴う投票
- ・遠い距離や高額な費用を伴う投票

d. 無権者による参加

- ・言論表現の自由 (ex. 庶民による政府批判)
- ・発達したメディア (ex. 世論による政府批判)

ルソーのいう一般意志に基づいた「民主主義」というものは、過去のいずれの民主主義においても存在しなかったもの。幻想にすぎない。

ルソーやロックのテキストからは、人民は政府の存在以前には、生存権と防衛(戦闘)権しかもたないと読める。
ある状況において優位にある治者が、その優位な状況を維持しようとする営み全般が「統治」である。

実力支配から権力支配への転換の理由

「最も強い者でも、自己の力を権利に、服従を義務に替えない限り、いつまでも主人の地位を保てるほどに強い者ではない。」ルソー

いわゆる「近代民主主義」は、近代的メディア環境において、参政しているという幻想と満足感を被治者に与えるための虚構ではないか。

一般意志 *volonté générale* *volonté de tous*

社会契約に先だって一般意志が存在すると読める。

一般意志は常に善であり誤らず合理的であるとしている。

「議論を通して特殊意志が過不足を相殺した結果残るものが一般意志である。」

「一般意志は、つねに公正であるばかりでなく、常に公益を志向しているといえることができる。」

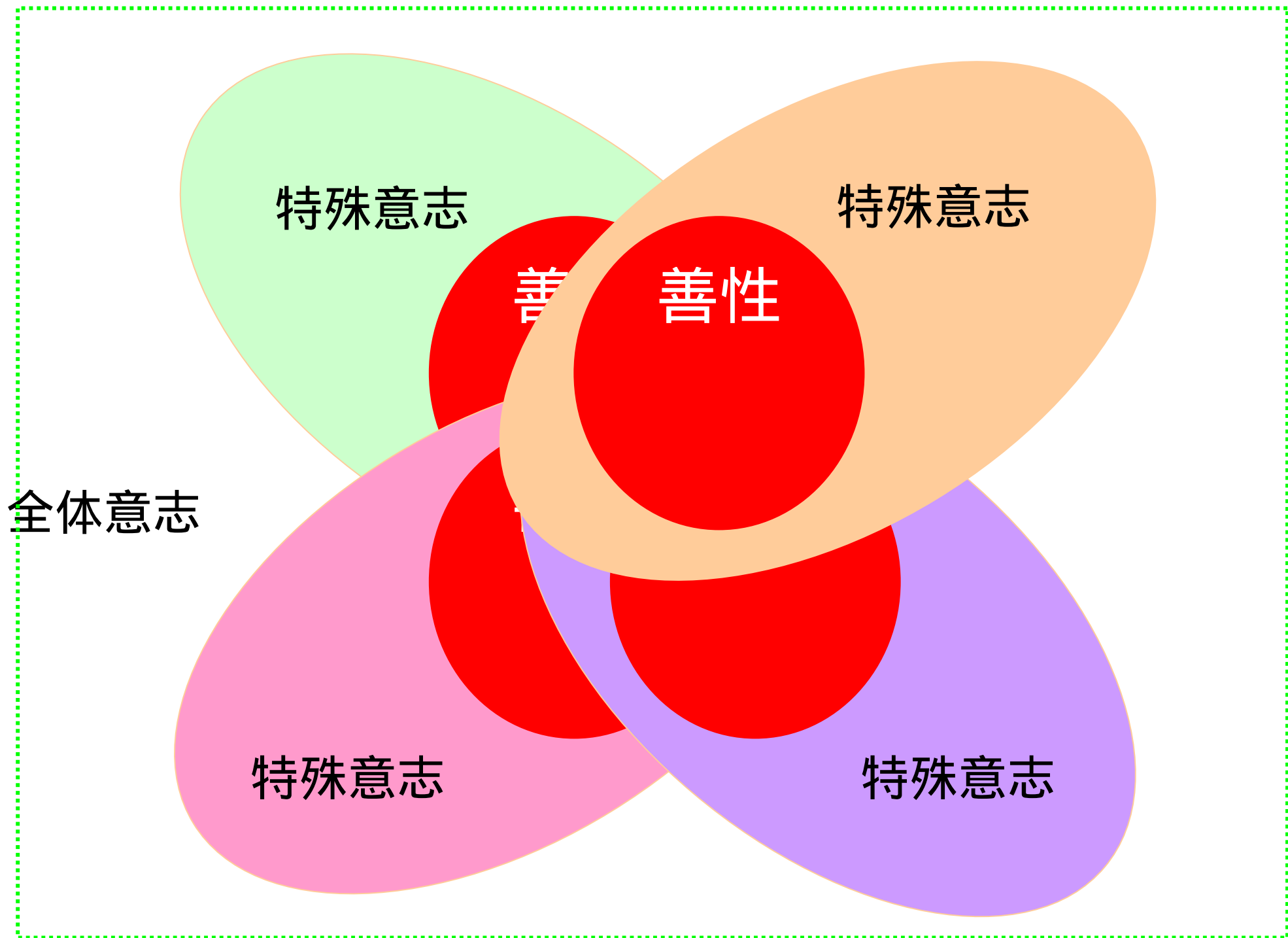
「国家のすべての構成員の普遍の意志が、一般意志であり、この一般意志によってこそ、われらは市民であり、自由であるのだ。」 人が自由であるのならば、その人の意見は当然に一般意志と合致する。

「これらの異なる利害の中にある共通なものこそ、社会の絆を形成するのである。」

「意思が一般的であるためには、それが全員一致であることを必ずしも必要としないが、全員の投票が数に入れられることが必要である。どんな形ででも、投票の拒絶が正式に行われたら、それは、一般性を破壊する。」

「神」の代用物？

「真のキリスト教徒は奴隷となるように作られている。かれらはそれを知りながら、ほとんどそれに心を動かされない。この短い人生は、彼らの目には、あまりにも値打ちのないものに映るからである。」 [ルソーはキリスト教を嫌悪](#)



特殊意志

特殊意志

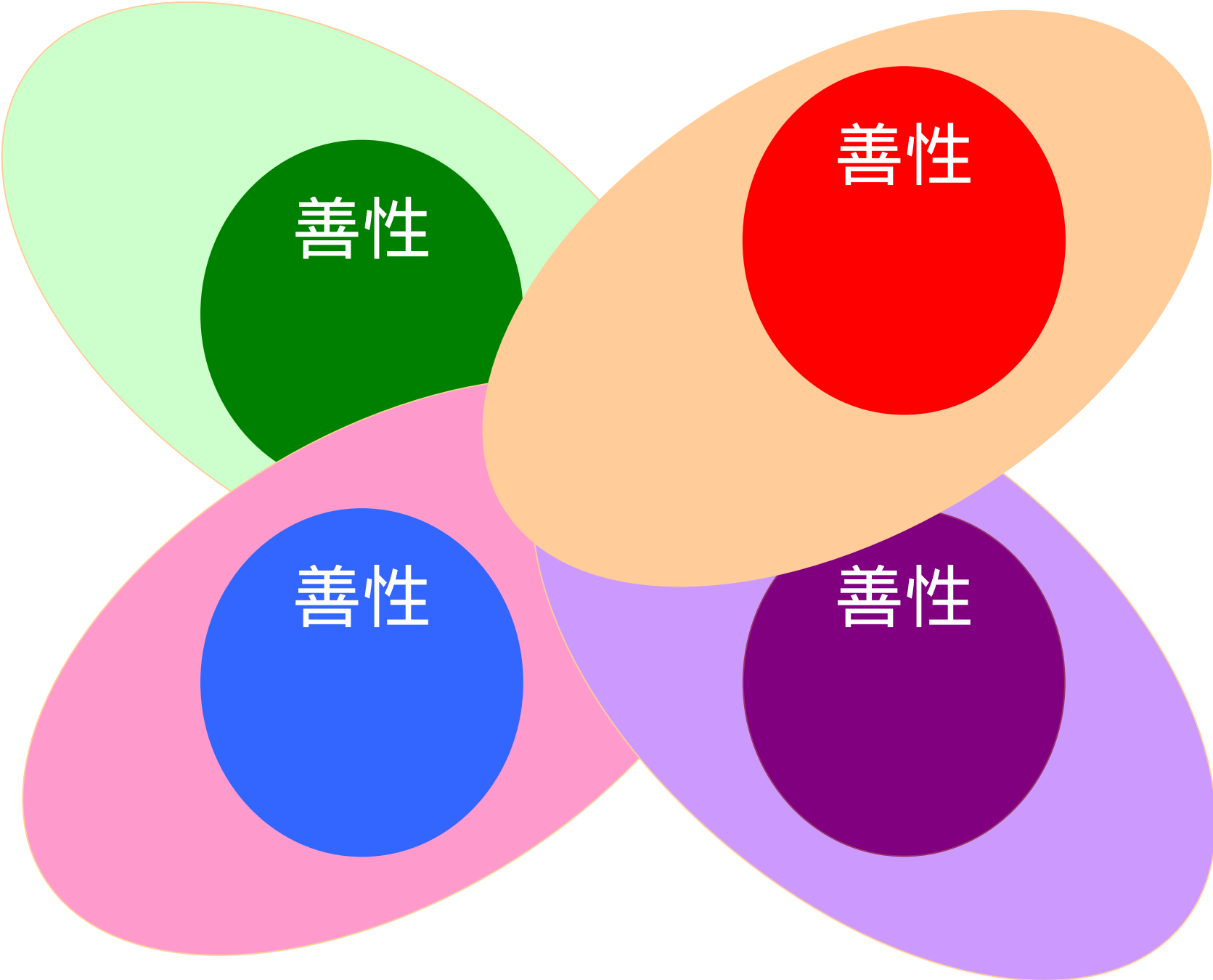
善

善性

全体意志

特殊意志

特殊意志



ルソーの人間観

人間は本来善性をもち合理的でありながら、様々な因習によって意思が歪められているとしている。

ルソーの社会契約では、人為的な教育によって作られる公共性や公共の徳が社会契約における条件とされていない。

理性の専制の時代

「たんに欲望の衝動に従うのは奴隷になることであり、自ら課した法にしたがうのが自由なのであるから。」ルソー

「法は理性によってのみ公布される。自分の理性を使用するにいたらない者はこの法の下にあるとはいいい得ない。そこで、アダムの子たちは生まれるや否や理性の法の下にあるのではないのだから、始めは自由ではなかったのである」ロック

ルソーにおける社会契約の内容

「我々、各々は、その身体とその力のすべてを共同にして、一般意志の最高指揮の下にゆだねる。さらに、我々は、政治体を形成するものとして、各構成員を全体の不可分な部分として受け入れる。」

「結社の存在は、一般意志の形成を阻害する。」

「国家の中に部分的な社会が存在せず、各市民が各自の立場でしか意見を述べないようすることが肝要である。」

政党選挙、根回し選挙、共同体的選挙はNG ネットにピッタリ
伝統の紐帯から開放され、孤立した自己をすべて共同体全体に対して与えてしまうことを要求している。

もっとも完全な社会主義・全体主義

法の存在こそ一般意志の現れである。法すなわち一般意志は個別特定の問題に対して作用せず、一般的に作用する。

「一般意志に服従することを拒むものは誰でも、政治体全体によって服従を強制されるという約束を含んでいる」すなわち、「その者が自由になるよう強制される」ことを意味する。

全知全能の神の代替物として、理論的には存在を主張できるものの、具体的な権力執行主体としては存在しない「一般意志」による専制がルソーにおける理想国家のイメージなのでは？

自由主義を好むネットワークカーにはウケそうにない。

3. 統治機構

- a. 時間的幅と空間的広さにおいて優位な認識を持つ者が統治を行うことが望ましい。 「知行」という言葉
- b. 時間と空間を統べる「存在」すなわち「神」による統治が行われている(あるいは望ましい)。 哲学・神学を重視
- c. 時間的連続性において優位である旧家による統治が望ましいと考えられた 伝統主義 / 王制・帝政
- d. 空間的広さにおいて優位である富者による統治が望ましいと考えられた 王制・帝政 / 近代における富者
- e. 資産状況における優位と政治的優位が連動していた

- f. 市民革命とは、識字・出版メディアにより知識を増大し、合理的世界観を獲得し、資産状況を向上させた市民層による、旧い時間的空間的認識を持っていた旧勢力からの政治権力の奪取　　ここでいう「民主」の「民」とは、王族・貴族とは異なるという意味。すなわち市民層が想定されている。
- g. 市民革命の理論の前提となっているのは「護るべき財産をもっている知識の豊かな理性的市民」　　統治を担いうる深く広い教養のある理性的な市民の形成が課題となる。

h. 財産要件や能力要件のない(未成年を除く)普通選挙制度の導入以降は、市民革命が想定していた基礎と異なる基礎にたつ「民主制度」が現れた。

財産の保護や市民的地位の保全から、たんなる人気投票へ。

統治の担い手として相応しいように、すべての人間を理性的であるよう改造する。

フランス革命では「理性」がキリスト教に代わる宗教として奨励され、ロシア革命では科学的真理を体現する党が人民を指導するという政治体制を生み出しましたが、その帰結は「一般意思(理性/科学的社会主義)に従わない者の生存を許さない」ということになりました。

i. とくに日本の近代統治の場合、

- ・1868年から1888年 藩閥政治
- ・1889年から1924年 制限選挙による富民政治
- ・1925年から1944年 大衆と軍部による暴走政治
- ・1945年以降 利益誘導と人気投票による政治

民主政治など行われたことは無かったのではないか？

j. 情報革命によって、実際に財産要件や能力要件なく政治的発言や行動ができるようになった。

しかし、この状況を 18 世紀的「市民」を前提とした「民主政治」と同一視するのは危険。

統治を担う責任を負うつもりはなく、しかも統治に必要な広い知見を得る努力を避け、しかしながら情報機器の支援によって強力な政治的発言力・影響力を行使しうる群集としての人民が抬頭する時代

愚民政府の時代

4. バカと暇人の世界

『ウェブはバカと暇人のもの』(中川淳一郎, 2009)が出版された。ようやく、コンピュータ・ネットワークは一般化されたといえる。

メディアの大衆化 = メディアの低俗化

「神」の代替物として措定された、理性的かつ合理的な「一般意志」が、めでたく「バカと暇人のもの」になったネットワークにおいて成立するとは考えられない。

政治の正統性(legitimacy)に重点を置くならば、ネットワークによって誰もが参加する透明性のある統治システムは、望ましいだろう。しかし、大衆化し低俗化したメディアを用いて、大衆が参加する政治は避けようがなく、衆愚政治となるだろう。

衆愚政治 短期的かつ狭隘な認識に基づき、情動に支配され、自己の権力的利益の最大化のみを達成しようとする人々によって支配されている政治状況

ならば、愚民によって意思決定される統治機構に、どのような安全装置を実装するのかを考えたほうが建設的だ。

「各個人は市民としての権利は享受しながら、臣民としての義務は御免をこうむろうとするかもしれないのである。こんな不正が発展すれば、政治体の崩壊を招くであろう。」

「下劣な人間は偉大な人物の存在をけっして信じないものだ。賤しい奴隷たちのうちには、自由という言葉を聞いただけで、せせら笑う者がある。」

「公共の義務がひとたび市民たちの主要な仕事でなくなり、彼らが自分の身体で国に奉仕するよりも、財布で奉仕する方が楽だと思うようになれば、国家はすでに滅亡のふちに沈んでいる。」

ルソー

「国家が滅亡に瀕して(中略)きわめていやしい利害が、あつかましくも公共の福祉という神聖な名前で身を飾るようになると、そのときには、一般意志は沈黙を守るようになる。すべての人が、心中ふかく隠れた動機に操られて、自分の意見を言わなくなり、まるで国家が存在しないも同然となる。そのうえ、個人的な利益しか目的としない不正な布告が、法律の名のもとに、誤って制定されることになる。」

ルソー

愚民政府について考える

- a. 短期的利益を最大化しようとする人民の行動にどのように長期的利益を繰り込むのか？
- b. 狭隘な認識、限られた情報しかもたない人民の行動にどのようにして大局的判断をし得る認識をもたせるのか？
- c. 情動に支配され極端になりがちな参加者の判断をどのように安定して一貫したものとするのか？

長期的利益を代表する階層(貴族等旧家)、広範な知見をもつ階層(知識階級)、保守的で社会の安定を利益とする階層(富裕階級)が、完全に平等な言論空間において少数派であるのならば、積極的に発言力を付与するような「重み付け」が要求されるのではないか？ オルテガ「大衆の反逆」

5. と思ったら、いい考えが浮かんだ (熟慮システム)

- a. 投票者番号等の個人 ID を割り振る いろいろな方法があると思う。
- b. 個人 ID で投票履歴を取得し、重み付けを行う。
 - ・より継続的に投票する人は重く、棄権すると軽く扱う。
 - ・選挙管理委員会に、政策の整合性を評価する専門委員会(仮称・整合性委員会)を設置する。
 - ・投票履歴を記録し、整合性委員会の判断する整合的投票行動と一致する割合の高い人の票を重く扱う。
 - ・政策の整合性が破綻したと整合性委員会が判断する非常時には、全投票者の票を平等に扱う。
- c. もちろん、投票行動のプライバシーは保護される。

6. おわりに

鈴木健氏による伝播投票システムの先駆者

13世紀から共和制の終わりまで、ヴェネツィアの大評議会は、まず30人の市民を選び、これらが9人の市民を、その9人が40人の市民を選び、その40人の中の12名が籤で選ばれて、25人の市民を選び、そのうちの11名が籤で選ばれ、その11名が41名を選び、その41名が統領を選んだ。

国民の習俗について

「世界のあらゆる民族において、彼らに楽しみとして選ぶものを決定させるのは、けっして自然ではなくて、世論である。人々の世論を矯正してみるとよい。そうすれば、彼らの習俗はひとりでに浄化されるだろう。人はつねに、美しいものか、美しいと思うものを愛する。だが、人が誤るのは、この判断によってである。だから、この判断をこそ正さなければならない。」

以上